

インターンシップ参加による社会人基礎力の変化について―実習前後のアンケート調査の分析―

中島 美佐穂

一. はじめに

社会情勢の変化と共に、大学教育を取り巻く環境も変化し、大学は課題発見、実行力といった社会人として必要な「社会人基礎力」を有する人材育成が求められるようになった。

二〇〇五年、経済産業省が若年層に不足が見られる「仕事の現場で求められる能力」について検討し、二〇〇六年に「職場や社会の中で多様な人々と共に仕事をしておくために必要な基礎的な力」として「社会人基礎力」の概念が発表された。二〇〇六年の経済産業省の調査によると、63.4%の企業が、新卒社員の採用プロセスや入社後の人材育成において「社会人基礎力」を重視してい

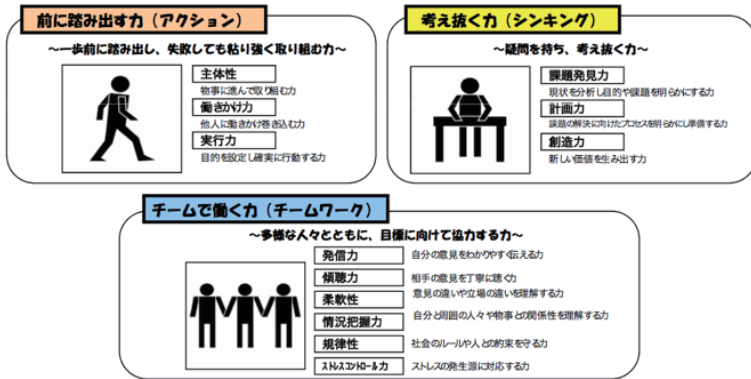
ると回答した。

「社会人基礎力」を有する人材育成の有効な手段の一つとして、学生が産業や社会についての実践的な知見を深める機会であるインターンシップの推進が必要とされている。

本学のインターンシップは全国的に普及する前の一九九八年から正課授業として積極的に取り組んできた。二〇一四年度の実習先数は二二六社（企業、自治体、各種団体含む）、実習参加者は四二七人と、全国屈指の規模となっている。

本稿では、本学のインターンシップに参加した学生の「社会人基礎力」の変化を調査し、今後のインターンシップ科目の展開や課題を検討することを目的とする。

<3つの能力／12の能力要素>



経済産業省が提唱する社会人基礎力3つの能力／12の能力要素

二〇一四年度のインターンシップに参加した学生に、実習前後でアンケート調査を実施し、「社会人基礎力」を構成する能力要素において伸長する結果が得られたので報告する。

二．方法

【調査対象者】

二〇一四年度のインターンシップ科目（履修科目名：経営学部では、企業実習、自治体実習、経営学部ではビジネスインターンシップ、情報社会学部ではインターンシップ、人間科学部では企業実習）を履修し、実習に参加した学生を対象として、アンケート調査を実施した。四二七名に配布し、三五七名の回答を得た。

【調査時期】

実習前 二〇一四年六月二〇日
実習後 二〇一四年八月下旬～九月下旬（実習先によって実習時期が異なるため、実習後の提出物と共に回収した）

【調査内容】

設問項目は社会人基礎力の一二要素について、経済産業省が作成した評価基準を基に五段階レベルに分けた評価表を作成し、実習前と実習後に調査を実施した。

「社会人基礎力の設問項目」

①主体性

- 1 言われても行動しない
- 2 人から言われないと行動しない
- 3 指示されたとおり実行・行動出来る
- 4 自らの判断で行動出来る
- 5 困難な状況でも自ら率先して行動出来る

②働きかけ力

- 1 他人からの働きかけを拒絶する
- 2 自ら働きかけず、他人からの働きかけにも無関心な態度をとる
- 3 他人からの働きかけに無批判に従うが自ら周囲に働きかけない
- 4 周りに効果的な働きかけが出来る
- 5 最も効果的な働きかけを行うことが出来る

③実行力

- 1 目標設定ができず、行動に移せない

- 2 具体的な目標設定をする事が出来ず、行動も鈍い
- 3 目標達成の為の行動は理解しているが、自らの意欲に欠ける

- 4 目標をある程度理解し、的確な行動をとる事が出来る

- 5 目標を確実に達成する高い意欲と能力があり行動に移せる

④課題発見力

- 1 思いつきで発言を繰り返し、課題の発見力が不十分である

- 2 分析する能力が不十分な為、課題を見つけられない

- 3 助言を得ながら分析を行うが満足な課題発見が出来ない

- 4 現状分析は自ら行うが、課題発見において不十分な場合がある

- 5 的確に現状分析を行い、課題発見をする事が出来る

⑤計画力

1 何から着手してよいのかわからず、計画性が無い

2 計画が不十分な為、次のプロセスに進めない

3 計画を立てるが、現実的な効果を期待できない

4 計画を立てる事が出来るが、不十分な点を残している

5 漏れない計画を立てることが出来る

⑥創造力

1 変化を嫌い、それを周囲に強要する

2 新しい発想や発見をしようという意欲を持たない

3 周囲の助言や指導がなければ、新しい発想が生まれてこない

4 意欲的に新しい発想を生み出そうとするが、周囲の助言が必要

5 独自に新しい発想ができ、高いレベルで実行出来る

⑦発信力

1 何を言いたいのかわからない

2 なかなか発言しようとはしない

3 発言の内容は理解出来るが、論議は進展しない

4 自分の意見を明確に伝える事が出来る

5 論議全体を推し進めるような明快な発言が出来る

⑧傾聴力

1 相手の意見を聴かない

2 他人の意見を聴いているように見えるが、聞き流している

3 相手の意見を聴き内容は理解できるが、フィードバックしない

4 相手の意見を聴き、適度に自分の感想を述べる事が出来る

5 相手の意見を聴き、進展させるような助言を行う事が出来る

⑨柔軟性

1 自分と異なった意見に対して、理解しようとしていない

2 自分と異なった意見に対して、無気力な態度を示す

3 相手との意見の違いを判断せず、無批判に同調

しようとする

- 4 相手の意見との違いを理解し、その違いを述べる事は出来る

- 5 納得のいく理由があれば相手の意見を受け入れる事が出来る

⑩状況把握力

- 1 非常識な行動や発言を行う

- 2 自分の役割を果たしていない事に対しても何も問題を感じない

- 3 場の空気を読む事は出来るが、自ら積極的な行動は出来ない

- 4 自分の立場や役割を理解し行動出来る

- 5 自分の役割を理解し、的確に現実的な状況把握が行える

⑪規律性

- 1 約束を守らない。ルールを破つても謝らない

- 2 言い訳をし、約束やルールを守らない事が多い

- 3 事前に確認すれば、約束やルールを守る事が出来る

- 4 誰に言われなくても規律ある行動が出来る

- 5 周りのメンバーに対しても規律やルールを守らせる事が出来る

⑫ストレスコントロール力

- 1 わずかの負荷に対して不満をいい、かつ周囲に悪影響を与える

- 2 負荷が増えると、仕事への取り組み意欲が減退する

- 3 周囲の支援があれば何とか耐えられる

- 4 多少、負荷が増えても自分で解決する事が出来る

- 5 負荷を自分でコントロールし仲間のストレスを解消できる

三. 結果と考察

【回答者の属性】

有効回答 三三七名。

学部	合計	割合
経済学部	141	39.5%
経営学部	128	35.9%

表1 社会人基礎力要素 実習後増加率

増加順位	全学部	増加率 (%)
1 位	発信力	120.81
2 位	実行力	118.13
3 位	課題発見力	117.52
4 位	計画力	114.81
5 位	主体性	114.37

情報社会学部 55 15.4%
 人間科学部 33 9.2%
 性別 合計 割合
 男性 229 64.1%
 女性 128 35.9%

(一) 社会人基礎力の
 変化分析 全学部 (図
 1 表1)
 「社会人基礎力」の
 一二能力要素のすべて
 において、実習後の得
 点の実習前を0.26点以
 上上回っていた。特に、
 「発信力」、「実行力」、「課
 題解決力」では増加率
 が伸長した。

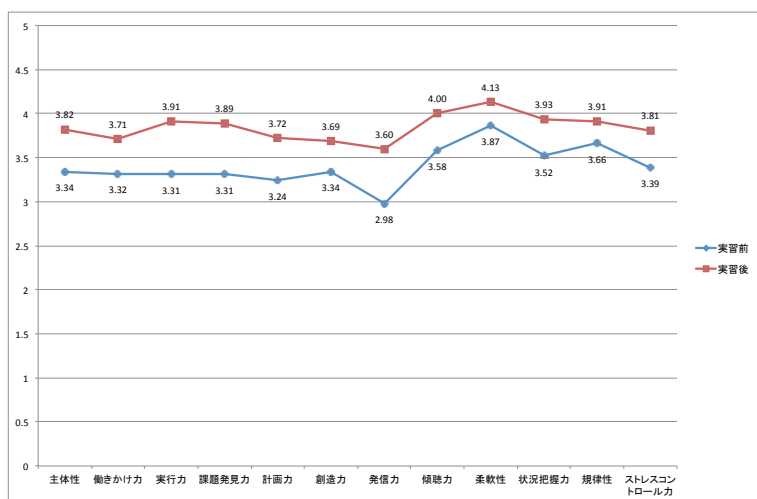


図1 社会人基礎力要素 実習前・実習後比較

表2 社会人基礎力要素 実習後増加率 男女別

増加順位	男性	増加率 (%)	女性	増加率 (%)
1位	発信力	122.45	課題発見力	121.17
2位	実行力	117.37	実行力	118.96
3位	課題発見力	115.27	発信力	118.36
4位	計画力	114.29	働きかけ力	115.64
5位	主体性	113.65	計画力	115.55

(二) 社会人基礎力の
変化分析 男女別 (表
2)

「社会人基礎力」の能力要素を男女別の増加率で比較すると、男性は実習後に最も顕著に伸長したのが「発信力」であった。次に「実行力」、「課題発見力」、「計画力」、「主体性」の順番で伸長した。

女性は、実習後に最も顕著に伸長したのが「課題発見力」であった。次に「実行力」、「発信力」、「働きかけ力」、「計画力」の順番で伸長した。

(三) 能力要素を高める行動について
実習後のアンケートでは「自分に不足している能力要素を高めるため、どのような努力をしましたか?」という設問も追加した。

男女共に増加率が最も増加した上位三要素について、自己評価が増加した学生のコメントを以下のとおり抜粋した。

「発信力」が増加した学生のコメント

- ・ 毎日スピーチ研修があったのでそれが大きく影響した。毎日スピーチの良かったところ、悪かったところを意識して次のスピーチに活かした。
- ・ 実習でセミナーの開講や入社案内の製作と発表などで人前に出て、自分の意見を相手に伝える仕事を多く体験させていただいた。
- ・ はじめて顔を合わせた人達の中で行うグループワークで積極的に発言、行動するようにした。
- ・ 営業同行や内務の他にグループワークで話し合いをするときは、自ら発言することを心掛けました。
- ・ 思ったことや疑問に感じたことを積極的に質問し、

その場で理解することを実習中に何度も繰り返し返した。

「実行力」が増加した学生のコメント

- やらない後悔よりもやる後悔と、自分に言い聞かせ、積極的に何事にも取り組むよう努めた。
- 今まで人に指示されるまでどうしたらよいかわからず、動けませんでした。しかし、実習を通して指示されなくても自ら何をすべきかを考え、「こうしてもいいかな?」と迷っているなら行動する、と自分の中で目標を作り行動した。

「課題発見力」が増加した学生のコメント

- グループワークをしていた時に、自ら課題を発見することを前提にしていき、いくつか提案した中の一つが通ることができた。
- 企業ヒアリングの後、課題に対してどのような解決策を提案できるか考えるように努力した。

能力要素が増加した学生の傾向として、能動的な行動

によってこれらの能力を高めていることが伺える。学外に飛び出し、社会の一員として仕事を経験することは、座学では得られないメリットを得ているのではないだろうか。

以上の結果から、インターンシップの参加によって「社会人基礎力」の能力要素すべてが向上し、一定の成果があがっていると考えられる。

特に「発信力」、「実行力」、「課題解決力」の三要素については男女共に増加率が高く、実習によってこれらの要素が培われたと推定できる。

しかしながら「発信力」については増加率が最も顕著ではあったものの、実習前後共に得点は低く、能力向上に向けた取り組みが必要な要素である。

四、おわりに

本調査で明らかになった課題から科目担当者として、具体的には次の三点について取り組んでいきたい。

・「社会人基礎力」の再認識

初期の事前講義において、「社会人基礎力」の重要性

を説明し、学生個々が自己点検し、課題を発見させる。
また課題解決に向けた目標の設定をする。

・「発信力」の向上

事前講義においてグループワークを取り入れ、発言や発表の機会を設け、実習までに能力を高める。

・受入先企業への協力依頼

学生が目標設定した能力を、受入先企業と共有し、課題とした能力の向上について協力を依頼する。

以上のような点において関係各所に協力を仰ぎ、インターンシップ科目を充実、改善していきたいと考えている。

更に今後のインターンシップの事前講義や実習の進め方を検討し、より効果的なカリキュラムに落とし込んでいくかを研究していく次第である。

引用文献

文部科学省、厚生労働省、経済産業省（平成九年九月十八日）「インターンシップの推進に当たつての基本的考え方」

経済産業省（平成十八年四月）「社会人基礎力に関する緊急調査」

体系的なキャリア教育・職業教育の推進に向けたインターンシップの更なる充実に関する調査研究協力者会議（平成二五年八月九日）「インターンシップの普及及び質的充実のための推進方策について意見のとりまとめ」

文部科学省、厚生労働省、経済産業省（平成二六年四月八日）「インターンシップの推進に当たつての基本的考え方」の見直しの背景及び趣旨について

（人間科学部准教授）

まちづくりを担う

総合型地域スポーツクラブのマネジメント

田島 良輝

一．はじめに

少子高齢化、環境問題、不景気など、現在、地域社会はさまざまな課題に直面している。こうした課題にビジネスの手法を用いて解決をめざす「コミュニティ・ビジネス」への期待が高まっている。私の研究は、特に健康・スポーツ・まちづくりの分野で課題解決に取り組む「総合型地域スポーツクラブ」を対象としている。総合型地域スポーツクラブ（以下 総合型クラブ）とは、子どもから高齢者（多世代）まで、それぞれのレベル（多志向）で複数種目（多種目）に参加できるクラブをいう。文部省（当時）が平成七年度に育成モデル事業をはじめて以来、我が国には三三三七（平成二五年七月現在）のクラ

ブが育成されてきた。これまでの学校や企業、行政に大きく依存したスポーツシステムを見直し、地域住民が主体となつて運営する制度設計であることから、スポーツの振興のみならず、まちづくりの核となることも期待されている。実際に「総合型地域スポーツクラブの設立効果に関する調査研究 報告書」（平成二二年三月（株）三菱総合研究所）をはじめ、複数の調査研究でコミュニティ再生に寄与するソーシャルキャピタルの醸成が示され、総合型クラブの社会公益性が認知されつつある。しかし、多くのNPOと同様に「多様な運営財源の確保」や「住民ニーズをふまえたプログラム開発」といったマネジメント上の課題を抱えていることも事実である。

そこで、研究者、クラブ関係者、行政と協働で研究プ

表1 成果達成に向けた総合型クラブのマネジメント課題

	制度	稼働	成果
定義	仕組み	運営状況	最終的な目的・目標
総合型クラブの場合	総合型クラブの設立	会員数の増減 持続運営可能な財務状況	地域のスポーツ振興 ・スポーツを通じたまちづくり

ロジエクトを立ち上げ「スポーツを通してまちづくり」（表一）という総合型クラブの「成果」を達成するためのマネジメントツール開発や教育研修システムづくりに取り組んでいる。

本稿では、「自立・持続経営を担保する総合型地域スポーツクラブのマネジメント」、平成二四～二五年度、1,950（千円）」（平成二四年度科学研 究費助成事業 学術研究助成基金 若手B）の研究成果を中心に総合型クラブのマネジメントについてまとめることにしたい。

二．総合型地域スポーツクラブの財務分析

総合型クラブ（NPO 法人格取得ク

ラブ）の経営状況を把握するための指標や基準の開発を行うため、以下の三つの目的を設定して研究を進めてきた。

二．一 研究の目的

① NPO 法人格を持つ総合型クラブの財務データベースの作成

NPO 法人格を持つ総合型クラブの全国規模での財務データベースを作成し、クラブの財務実態（経常収入計、経常支出計、当期収支差額、収入構成など）を明らかにする。

② 総合型クラブの財務状況の把握

平成二四年度分まで追加・更新されたNPO 法人格を持つ総合型クラブの財務状況を馬場（二〇一一）らの提示する非営利組織の財務指標（表二）を用いて分析を行った。具体的には、財務持続性を短期、中長期双方の視点から捉え、短期的な支払能力を評価する指標として支払可能期間を中長期的な団体の維持運営を評価する指標として正味財産・収入比率を設定し、それぞれについて明

表2 NPO 法人の財務指標

	分析目的	財務指標	計算式	説明
持続性	活動を継続するための資源が蓄積されているか	支払可能期間	流動資産／総支出／12	何ヶ月分の支払手段が手元にあるかを示す
		正味財産・収入比率	正味財産／総収入	収入に対してどの程度の内部留保を蓄積しているかを示す
収入の質	活動を継続するために必要な資源獲得能力があるか	社会的支援収入比率	会費・寄付・補助金など収入／総収入	社会からの資金的支援による収入割合を示す
		収入多様性指標	$\sum (f_i/R)^2$	多様な資金源を確保できるかを示す
		収益率	経常収支／総収入	収入のうち留保できる余剰資金割合を示す

出典 Tuckman and Chang (1991)、田中 (2010)、馬場 (2012)

らかにする。また、企業とは異なるNPOの考え方や取り組みに対応した収益性を収益率、社会的支援収入比率、収入多様性指標の三点から分析を行い、NPO法人格を持つ総合型クラブの財務実態を解明する。

③ 総合型クラブの財務持続性と成長性の分析

NPO法人格を持つ総合型クラブの財務持続性と成長性を規定する要因を明らかにする。

二. 二 研究の方法

① NPO法人格を持つ総合型クラブの財務データベースの作成

(公財) 日本体育協会HPより全国の総合型クラブの一覧を作成した。そのうちNPO法人格を取得しているクラブの平成二二年から二四年度の四年間の財務データ(貸借対照表、財産目録、収支計算書)を収集した。財務データの収集方法は以下の手順で行った。一 各都道府県のHPよりダウンロード 二 ダウンロード不可の場合、内閣府HPからダウンロード 三 (一)(二)に掲載のない場合、各都道府県担当箇所へ問い合わせ、訪問

もしくは郵送の依頼を行い、財務情報を収集した。

② 総合型クラブの財務状況の把握

平成二四年度の（一）収入、支出、収支差額、正味財産の基礎情報をまとめた。（二）収入規模別の収入構成を分析した。分析は、書類に不備がなく、統計上分析可能なクラブ二〇九を対象に行なった。

③ 総合型クラブの財務持続性と成長性の分析

〈持続性の分析〉

組織の持続性（支払可能期間、正味財産・収入比率）を規定する要因を明らかにするため、収入項目（入会金・会費、寄付金、事業、補助・助成金）、と収入の質（収益率、社会的支援収入比率、収入多様性指標）をスピアマンの順位相関係数で分析を行った。相関係数の分析を通して、財務的持続性にいたるルートの仮説（平成二四年度版）提示を目指した。

〈成長性の分析〉

財務成長性と持続性の関連性、および財務成長性を規定する要因を明らかにするため、収入項目（入会金・会

費、寄付金、事業費・委託費、補助金・助成金）と収入の年平均成長率（経常支出）をスピアマンの順位相関係数で分析を行い、相関係数の分析を通して、総合型クラブの活動財源の成長性にいたるルートの仮説（平成二四年度版）提示を目指した。

二．三 研究の成果

① NPO 法人格を持つ総合型クラブの財務データベースの作成

現在、平成二二年度から平成二四年度までの財務データを表三のとおりデータベース化することができている。

② 総合型クラブの財務状況の把握

全体の平均の収入額は、三千七十九万円であり、最も収入額が大きいクラブは四億六四万円、最小は零円で

表 3. 財務データ収集数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
収集数	205	246	328	217
書類不備数	14	16	22	8
分析可能数	191	230	306	209

表4 NPO 法人格を持つクラブの財務状況

	総収入	総支出	当期収支差額	正味財産
平均値	30,795,599	30,386,349	409,250	6,173,201
中央値	18,060,256	17,681,377	105,644	1,810,649
最小値	0	0	-61,566,957	-43,259,695
最大値	400,644,323	367,257,798	33,386,525	86,035,104

であった。中央値が千八百六万円となっており、比較的収入格差が大きく収入規模の大きいクラブが平均値を引き上げていると考えられる。支出規模、収支差額、正味財産についても同様に（表四）にまとめた。当期収支差額に着目すると、37.0%は収支差額が零円かマイナスであり、百万円未満となると71.5%を占め、多くのク

ラブが余剰をほとんど残していない状態であることが分かる。正味財産についても同様にみたところ、債務超過が13.0%存在し、百万円未満の少額のクラブが44.7%となっている。他方、全体の19.7%は一千万円以上の正味財産を有しており、最高額は八千六百三万円であった。

次に、NPO 法人格を

持つ全国の総合型クラブを対象にクラブを収入規模別に分け、収入の質を示す指標と（収益率、社会的収入支援比率、収入多様性指標）組織が活動を持続するための指標（支払可能期間、正味財産・収入比率）をそれぞれ算出した。

その結果、持続性という面において、短期的には収入規模の拡大が支払可能期間の改善に結び付いていないこと、中長期的に見ても総収入の10%未満の内部留保しか確保できていないクラブが20%〜50%を占めるなど、脆弱な財務状況であることが確認できた。これは保健・医療・福祉や国際協力などその他分野のNPO全国データベースの分析結果や昨年度までのNPO法人格を持つ総合型クラブと同様の傾向であった。

収入の質についても比較分析を行ったところ、ここでも保健・医療・福祉の分野とよく似た特徴を確認した。例えば、収入規模が五百万円未満のクラブは多様な収入源があるものの事業規模が拡大するにしがたい、社会的支援収入比率が低くなり、収入多様性指標が上昇するといった傾向を指摘できた。

総合型クラブは、寄付や補助金などの幅広い財源を集

める特徴のある国際協力の分野ではなく、事業活動財源が集中する保健・医療・福祉の分野と似た、事業化による拡大を目指す団体と同様の傾向があることが示された。

③ 総合型クラブの財務持続性と成長性の分析

〈財務持続性〉

収入規模を拡大させるためには、事業収入を集中的に伸ばしていくことが有効であること、クラブの財務持続性を高めるためには、短期的にも長期的にも収益率と関連性が高いことが明らかになった。ただし、事業収入は収入規模の拡大には寄与するが、財務的持続性にはあまり貢献しないことから、多様な財源を確保することで支払可能期間の改善や内部留保を確保して、財務基盤の強化を図る重要性も示唆された。以上の分析は、平成二三年度までのデータベースで分析した結果と同様の特徴を示した。

〈成長性の分析〉

NPO法人格を取得している総合型クラブの成長性を分析した。はじめに総収入の年平均成長率（平成二一

年度～平成二四年度）を分析したところ、マイナス成長のクラブが一九、〇％～五％が一三クラブ、五％以上が三八クラブであった。そこで、総収入の年平均成長率が五％以上の三八クラブを対象に、収入規模（総収入）に影響を与える財務要因（収入項目と収入の質）を分析したところ、事業収入（ $\text{t}=0.783$ ）、補助金・助成金収入（ $\text{t}=0.660$ ）と高い相関がみられた。また、中島ら（二〇一二）の先行研究を参考に「活動財源（経常支出）」の年平均成長率（ t 年度～初年度）（ $\text{t}-1$ ）に影響を与える財務要因（収入項目と収入の質）を分析したが、高い相関を示す結果はなかった。以上の結果より、クラブの「成長性」をあらわす「活動財源」の拡大は特定の収入項目によって引き起こされているのではないということが明らかになった。

三、総合型地域スポーツクラブの会員満足度分析

次に、総合型クラブ（NPO法人格取得クラブ）の会員に向けて、住民ニーズをふまえたマーケティング戦略の開発を行うために、クラブのプロダクトへの満足度評

価やクラブへのロイヤルティに関する調査を実施した。

三、一 研究の目的

総合型クラブのプロダクトの中核ベネフィットを明示したうえで、人／施設／プログラム等について会員のサービス評価を調査・分析し、クラブへの満足度とその特徴、満足度とロイヤルティの関連性について、それぞれを明らかにする。

三、二 研究の方法

A県内六クラブ（有効回答三百四十部）のデータを収集し、探索的因子分析を行った。抽出された因子の下位尺度得点の平均について「検定（性別）、一元配置分散分析（年代、継続年数、スポーツ実施頻度）を行った。また、満足度がクラブへのロイヤルティに与える影響の強さを明らかにするため、重回帰分析も行った。

三、三 研究の成果

総合型クラブのサービスプロダクトに対する三四の評価項目について主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った。その結果、第一因子「プログラム」因子（多

彩なクラスやプログラムの存在など）、第二因子「施設」因子（施設・設備の使いやすさなど）、第三因子「交流」因子（良い仲間がいる）の三因子二三項目を抽出できた。サービスプロダクト三因子の機能を確認するために、抽出された因子の下位尺度得点の平均を「検定（性別）、一元配置分散分析（年代、継続年数、スポーツ実施頻度）を行った。その結果、「プログラム」因子（ $t(332)$

表5 各サービス因子の満足度、愛着度への影響力

満足度		愛着度	
	標準回帰係数		標準回帰係数
プログラム	.169*	プログラム	.185**
施設	.063	施設	.087
交流	.369**	交流	.374**
重相関係数	.257	重相関係数	.290
* $p<.05$ ** $p<.01$			

＝ $-3.17 < 0.01$ ）において、男性より女性の方が有意に高い得点が表示された。その他の分析では、平均値に有意な差を生じたものはないかった。

また、「クラブ活動全般への満足度」を従属変数、サービスプロダクトの各因子を独立変数として重回帰分析を行った。その結果、満

足度との規定関係において「交流」因子の標準回帰係数が高い値を示した。同様に「クラブへの愛着度」を従属変数、サービスポロダクトの各因子を独立変数として重回帰分析を行ったところ、愛着度との規定関係において、満足度と同様に「交流」因子の標準回帰係数が高い値を示した。

四. まとめ

クラブの資金不足の問題はこれまでも指摘されてきたが、事業性を高めるだけでなく、公益的な事業を取り組むことで、社会的支援収入比率を高めていく点が重要であると示唆できた。一方で、クラブ内での人的交流が会員の満足度や愛着度を高めることが示唆されたが、この規定力はそれほど強くなく、今後はその要因を明らかにしていくことが課題であると考えている。

国の財政赤字が膨らみ、人口減少や少子・高齢化が進み、課題先進国とも呼ばれている。この現状を改善するために、地域資源を活かし、地域に住む人たちの手で地域課題を解決する意識と手法を高めていく必要があると考える。今後も、コミュニティ・ビジネスや総合型地

域スポーツクラブが生み出す新しい価値（＝イノベーション）を創発できる研究を進めていきたい。

主な参考文献

- i) 馬場英朗ほか、「NPO 法人の収益構造と成長パターン・全国データベースによる財務指標分析から」、『大阪大学経済学』、Vol.60 No.4 p52-64、2011
- ii) 馬場英朗ほか、「非営利組織の財務評価 - NPO 法人の財務指標分析及び組織評価の観点から」、『非営利法人研究学会誌』、Vol.11 p145-162、2009
- iii) 三菱総合研究所、「総合型地域スポーツクラブの設立効果に関する調査研究」報告書、2009
- iv) 中嶋貴子ほか、「非営利組織の成長性と安定性に関する実証分析 - NPO 法人パネル・データを用いた財務分析から -」、『非営利法人研究学会誌』、Vol.14 p69-79、2012
- v) 中村好男ほか、「総合型地域スポーツクラブの育成・運営評価のための会計試案」、『スポーツ産業学研究』、Vol.13 No.1 p79-85、2003

- vi) 小野里真弓・畑攻・斎藤隆志、「観戦者からみたスポーツプロダクトとしてのWリーグの分析と考察」、『日本女子体育大学紀要』、Vol.35、2005
 - vii) 田中弥生ほか、「財務指標から捉えた民間非営利組織の評価―持続性の要因を探る―」、『ノンプロフィット・レジャー』、Vol.10 No. 2 p111-121、2010
 - viii) 田中弥生ほか、「NPOの持続性と課題・財務データベース分析から考える」、『ノンプロフィット・レジャー』、Vol.8 No.1 p33-48、2008
 - ix) Tuckman、Howard P. and Chang、Cryfil F.「A methodology or measuring the financial vulnerability of charitable nonprofit organizations」、『Nonprofit and Voluntary Sector Quarterly』、Vol.20 No.4 p445-460、1991
- (人間科学部准教授・二〇一五年四月着任)

二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック

招致活動の舞台裏

相原 正道

一. はじめに

五六年ぶりに東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、「スポーツの力」がどのように日本を変えるのかに注目が集まっている。日本政府も文部科学省の外局としてスポーツ庁を今年度に発足させ、スポーツ行政を一元化する方針を固めていく。スポーツ政策予算が一元化して確保されれば長期的な視野に立ったトップ・アスリートの強化が可能となるほか、国民へのスポーツ普及や健康福祉・医療分野への貢献など、幅広い役割が期待できる。筆者は、二〇一六年と二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピック招致という二つの活動を経験した、日本で唯一の研究者であると自負している。

二. 東京オリンピック・パラリンピック招致活動

二. 一 二〇一六年の失敗から学んだオールジャパン態勢

五六年ぶりの東京開催をもたらした最大の理由は、二〇一六年の五輪招致失敗から学んだことを二〇二〇年の五輪招致に活かすことができたからである。招致失敗の原因として挙げられるのは、ロビー活動不足と国内支持率の低さだった。これを反省した東京が、政財官と一体となったプロジェクトマネジメント体制を構築し、招致活動を推進してきたことが二〇二〇年の東京招致成功へと導いた。

招致活動の終盤は政府主導で行動していた。こうした行動ができた背景には、二〇一一年六月、衆参両院の全会一致で成立した「スポーツ基本法」という法律が影響している。前回の二〇一六招致活動は、一九六四年の東京五輪を前に施行された「スポーツ振興法」の時代だった。IOCが最も重視する政府の財政保証も、自民、民主両党の対立から各省庁を巻き込んだ末、大幅に遅れた。結局、財政保証が確約したのは立候補ファイル提出直前になってしまった。今回は、前回の反省を生かし、スポーツ議員連盟が主導して、国会が二度にわたり招致を決議。政府も早い段階で閣議了解させた。法律として定めることができた。これを受けた招致委員会は、前回存在しなかった評議会を設け、広く政財界から人材を迎え、国全体の支援体制を確立した。

二. 二 日本の「縦社会文化」に横断・連携体制の礎を築いた

苦手とするロビー活動も、IOCの竹田恆和会長と水野正人専務理事を筆頭に、森喜朗元首相と河野一郎

オリンピックほどの巨大イベントは久しくなかった

国民意識が“前向き”に変化



体育会系+α

1964
新幹線
高速道路

2020
SHOW ROOM

輸出産業

環境 教育 ロボット技術 建築 観光 健康・医療 COOL JAPAN

輸出産業

東京都
小中高公立300校
道徳授業
「オリンピック・ムーブメント教育」

国際会議
カジノ
5つ星ホテル
旅館

ファッション雑誌

IOC理事（元二〇一六招致委員会事務総長）という二〇一六からの体制を継続させ、IOC委員会とのロビー活動を展開した。また、今年三月に行われたIOC評価委員会の現地調査において、東京都も一月に二〇一六招致を経験した優秀な幹部陣を人事異動させ体制を強化している。二〇一六招致の経験者であり、現在は研究者である私までもが東京都招致推進部に呼び戻されている。最後は、安倍首相の外交セールスが大きく寄与した。それまで「スポーツは文部科学省の担当だ」という認識で距離を置いていた外務省も安倍首相からの発令で組織として動いた。

この日本政府を筆頭とする“オールジャパン態勢”は、日本の縦社会文化に連携強化という礎を築いたのではないだろうか。そしてこれまでどこか机上の空論であった「横断・連携体制」という言葉は、オリンピック招致活動において上手く実践された好例となるのではないだろうか。国民の支持率向上においては、ロンドンオリンピックにおけるアスリートの活躍が見逃せない。先の北京オリンピックでは、メダル獲得数が二五個と期待された成果をあげられなかった。しかし、ロンドンで

は過去最多となる三八個のメダルを獲得した。その後、五〇万人を集めた銀座のパレードが国民の支持を象徴する出来事となった。

この国民的行事が熱狂とともに、運営力の高さを証明してくれたことを忘れてはならない。銀座のど真ん中でパレードしたにも関わらず、大きな交通渋滞や事故もなく、しかも短期間の準備で安全に実施された。東京マラソンでのノウハウが活かされている。二〇一三年三月時点で東京都民の開催支持率は七〇%となり、地元支持率の低さという課題を克服した。

二・三 二〇二〇年東京開催を機に輸出産業へ転換
企業は、株主対策として単年度決算と三年間の短期経営計画に終始していたが、久しぶりに七年間の中長期経営計画を検討することになった。政府も、復興五輪をうたうならば、震災箇所における聖火リレーやサッカー競技会場だけでは寂しすぎる。ここに新たな開催計画やコミュニケーション活動を考案してはどうだろうか。IOCの規定があることは重々承知しているが、開催都市だけが持てる特権を模索すべきだ。政財官と一体となつ

た“オールジャパン態勢”は、ここからどう二〇二〇年に結実させるかが本当の勝負どころである。前回の一九六四年の東京オリピック後に景気は下がった。次の政治課題はこの下がり幅を抑え、輸出産業にどのように転換させるかだ。そのために、企業はオリピックを輸出のための産業見本市と捉え、ロボット技術、環境・建築、教育、健康・医療、食を含めた観光産業などの高い技術力を、東京という街をショールームと考え海外へセールスしてほしい。一九六四年の東京オリピックを契機に開発された新幹線や高速道路の高い技術を世界中が欲するのと同様に、オリピック関連事業は輸出品の提供と考えて営業展開すべきだ。

「オリピック・ジプシー」という言葉がある。オリピック開催地ごとに商売を展開している人々の俗称だ。プレゼンテーションの講師や戦略コンサルタント、メディア関係者などもこの中に入る。ギルド的な解釈が近い。二〇二〇年のオリピックを契機にオリピック・ジプシーと呼ばれるような輸出産業を育成できないだろうか。日本企業で組織体制が構築できれば、毎回招致を含めたオリピック開催時に莫大な利益を享受できる。

ロビー活動を目の当たりにしてきて思うのは、日頃のお付き合い、イコール日本企業の営業力だと思う。良い時も悪い時も地道に付き合ってこそ信頼関係は構築できる。今にして思えば、二〇一六招致のロビーは日本人らしからぬアプローチだった。今回は前回の継続が功を奏したわけだ。日本企業の“おもてなし”の営業力こそ輸出産業のキーだといえる。企業は安倍首相のトップセールスを見習って“キツキツの交際費”の考え方を今一度考え直すべきだと思う。不況を乗り切った日本人ならば、“活き金”の使途がわかっているはずだ。

三、盛況化するスポーツ科学研究

オリピック・パラリンピックが東京で開催されることで、スポーツを含めた研究も大いに促進されることが期待される。スポーツをより複合的な観点で視座する他分野との連携が促進されることであろう。筆者自身としては、科学研究費補助金「スポーツ文化の装置化による社会起業家の育成」(基盤研究(C))、二五三三〇四八九、二〇一三～二〇一五年度、代表・横

山勝彦」と「スポーツ産業市場活性化及び雇用創出へ寄与する起業家の人材育成プログラムの開発」（挑戦的萌芽研究、二五五六〇三二二、二〇一三～二〇一五年度、代表・松田裕雄）において、スポーツ科学分野はもとより、法学、経営学、心理学の専門家と研究チームを結成し、研究に勤しんでいる。複合的な視点で考察できることで、新しい発見が多く大変刺激的な研究活動となっている。

最近の筆者の論文では、①JOCのセカンド・キャリア支援策の全容を明らかにすること、②トップ・アスリートの社会的活用 of 観点から支援策の課題を検討することを目的とした「トップ・アスリートへのセカンド・キャリア支援」JOCのセカンド・キャリア支援策を中心に」を執筆している。先行研究調査を行った上で、トップ・アスリートに対するセカンド・キャリア支援の実態が明らかになっているとは言えないことに加え、トップ・アスリートとの関わりが深いJOCの支援事業の実態が明らかになっていないことなどが、既存研究の課題として挙げられた。そこで、JOCのセカンド・キャリア支援担当者インタビューを実施し、その結果をもとに今後

に向けてのあるべき方向性を検討した結果、セカンド・キャリア支援の必要性について指導者層への教育が必要であること、アントレプレナーシップ、特に社会起業とトップ・アスリートとを結びつけるセカンド・キャリア支援が今後求められることなどを指摘している。

四、おわりに

これまでの2つの科学研究費補助金研究では、「起業家と育成」が共通項となるが、その他の視点でもスポーツを研究していく予定である。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会における大学連携協定を締結している大学は、七六九校に及ぶ。全国の大学・短大は、一二九校なので約七割が締結していることになる。大阪経済大学はまだ未締結のため、ぜひとも大学に締結してもらい、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を学生に大いに享受してもらいたい。

オリンピック研究では、合宿地やレガシーの研究はもとより、チームのパフォーマンスを図る「フィールドデータ」と観客の購買行動を図る「ビジネスデータ」を

融合したビックデータの分析、地方創生における街なか
スタジアムの在り方などを研究していく所存です。

スポーツ科学研究、特に、スポーツマネジメントにご
興味ございます方がおられましたら、是非ともお気軽に
お声掛けくださいませ。

【参考文献】

相原正道・伊吹勇亮（二〇一四）「トップ・アスリート
へのセカンド・キャリア支援」IOCのセカンド・
キャリア支援策を中心に」『福山大学経済学論集』
三八・七五―八八

相原正道（二〇一三）「二〇二〇年招致活動の舞台裏」『宣
伝会議十一月号』・二六―二七

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委
員会大学連携協定締結大学一覧：[http://tokyo
2020.jp/jp/news/20141201daigaku.pdf](http://tokyo2020.jp/jp/news/20141201daigaku.pdf)（平
成二七年一月一五日閲覧）

（人間科学部准教授・二〇一五年四月着任）

治療共同体の考えに学ぶ

古賀 恵里子

一．はじめに

筆者は、二九年間、精神科病院で臨床心理士として多職種でチームを組みながら仕事を続けてきた。その経験を通して、個人あるいは集団精神療法、心理査定などの様々な臨床心理学的アプローチや、その他の心理社会的アプローチが有効に機能するためには、それぞれの取り組みの展開を包含する「全体としての環境」そのものが治療的であることが大切な要因となることを実感した。

一方、R. D. Hinshelwood (2001) は、その著書 *Thinking About Institutions* の中で、精神科病院をはじめ、心理的問題に深くかわる施設 institutions は、個々の患者やクライエントが、自分の生活の中で抱えられなく

なり、その周囲の人たちも抱えられなくなった「耐えがたさ intolerance」を持ち込まれ、その中のスタッフは「耐えがたさに耐える tolerate the intolerable」ことを求められると指摘している。更に彼は、個々の患者が個人の不安を防衛するのと同じように、施設にも独特な組織的現象が生じ、このことが施設全体の治療的機能を損なうことにも言及し、その否定的スパイラルを取り扱う方法は「熟考に基づく探究 reflective enquiry」^①であり、そのためには、施設の中に熟考を可能にする空間を確保することが肝要であることを主張している。そして、それを可能にする一つの設定が「治療共同体 therapeutic community (以下、TCと略)」と考えられているのである。

本稿では、TCの歴史や考え方を概説した上で、筆者が二〇一三年に英国渡航の際に見学した英国での治療共同体の実践や、更に、二〇一四年にイタリア・マッকারニョで開かれたワークショップにおける筆者自身の「TCメンバー体験」を紹介し、現在の精神科医療やメンタルヘルスサービスにおいてTCから学べるものは何かを考察することを目的とする。

二・治療共同体とは

TCは英国の精神科医であるW.R.BionやT. Mainによって一九四〇年代に、バーミンガム近郊のノースフィールド病院で、第二次世界大戦中の戦争神経症の患者たちを対象に始められ、同じく英国の精神科医であるM. Jonesによるベルモント病院（後のヘンダーソン病院）での実践で確立された。

日本では一九六九年、世界保健機関WHOの顧問として来日し、日本の精神科医療を視察した上で「クラーク勧告」を出したD.H. Clarkが、その勧告の中で当時の日本の精神科医療の現状を憂えて、長期入院の患者

たちの無力感に働きかける有効な治療法の一つとしてTCを紹介している。また、丁度そのころに英国でM. Jones (1968) が『治療共同体を越えて』を出版し、鈴木純一によって一九七六年に翻訳され日本でも出版された。

その後、日本では、主に集団精神療法や社会精神医学に関心を持つ精神科医のリーダーシップの元で、いくつかの病院でTCの試みが実践されたものの一部にとどまり、現在では「時代遅れ」のアプローチとみなされている感もある。しかし、三品桂子(2013)はTCを「患者の自己決定や主体性を尊重する考え方の実践であり、精神科病院の改革にとどまらず、精神科デイケアや地域リハビリテーションの方法の基盤となり、今日のイギリスの援助者の理念と実践の根幹となっている」と述べ、現在日本で注目されているアウトリーチの取り組みにおいても不可欠な視点であることを強調している。

TCでは、病院や病棟、あるいはデイケア等を一つのコミュニティ（共同体）と考え、個人精神療法や集団精神療法のみでなく、それ以外の日常の活動、例えば料理、掃除、レジャーなどを重視し、その中で起こるさまざまな

な出来事を、患者とスタッフが一緒に考え対処しようとするアプローチである。そこでは、患者同士、患者とスタッフの関係を通して、個々の患者が自分の感情に向き合い、自分の責任性を取り戻しつつ回復していくことが重視されている。また、コミュニティの中で起こるできごとを全体で共有するという文化の醸成を目指し、①コミュニティのメンバーである患者とスタッフ全員が参加して話し合う「コミュニティ・ミーティング（以下CM）」②CMの後にスタッフで行う振り返りである「レビュー・ミーティング」、③コミュニティ内で何か問題が起こった時に臨時で開かれ、その問題に少しでも関係する人たちが集まって話し合う「クライシス・ミーティング」が三本柱として挙げられている。

鍵概念である「共有」を実現するためには、心理的な公平さegalitarianを重視する考えがその基底に流れ、皆で考えること、患者の病的体験よりも健康な側面を重視すること、問題が起こるプロセス（文脈）を重視すること、そして、そのことが率直に話し合われることが大切である。そのようなやり取りの中では、痛みを伴うコミュニケーション painful communication が展開され

ることもある。しかし、ここでは、そのような「危機」こそが、学習の機会となりうると考えられる。これを「社会的学習 social learning」と呼ぶ。そこではことばのやり取りだけではなく、「アクション action」が意味を持つコミュニケーションとして重きを置かれる。

三、治療共同体コンソーシアム年次集会・イギリス

先に紹介した R.D. Hinshelwood の著書に動かされて、筆者は精神科医療が展開される施設の無意識的不安やそれに対する防衛をできるだけ意識化して「何が起きているのか」を考え続けることで、治療施設を「治療的なもの」にすることが必要であると考えるようになった。しかしながら、現在の日本においては、入院というセッティングがもつ治療的潜在力そのものに関して認識されていない面があるのではないかという問題意識を強め、更にTCについて学ぶ必要があると考えた。そこで、R.D. Hinshelwood が、かつて代表を務めた The Association of Therapeutic Communities(以下、ATC)の活動を調べたところ、現在 The Consortium

for Therapeutic Communities(以下、TCTC)として再統合されている」と、毎秋 Windsor でカンファレンスが開かれていることがわかった。早速、入会しカンファレンス参加の申し込みの手続きをとった。同時に R.D. Hinshelwood に連絡をとったが、生憎、カンファレンスの時期にイギリスを離れるとのことだったので会えなかった。しかし、イギリスで治療共同体を実践する地域の組織 Community Housing and Therapy(以下、CHT)の CEO であり、International Network of Democratic Therapeutic Community(以下、INDTC)の代表である J. Gale を紹介してもらった。

TCTC は、それまで長く続いた二つの組織―成人を対象にした ACT と、子どもを対象にした Charterhouse Group Communities―が統合されて二〇一二年に新たに生まれ変わった組織である。年次カンファレンスは、ACT の時代から、毎秋ウインザーのグレイトパークの中にある Cumberland Lodge という一七世紀に建てられた王室所縁の宿泊施設で、イギリスのみでなく他の国の実践者を集めて開かれていた。

二〇一三年一〇月二日から二三日の日程で開かれた

カンファレンスのテーマは“Enabling Communities : The Future of Relationships”であった。日本語で表現しにくい「成長・回復を可能にする環境―関係性の未来」と訳したい。参加者は一〇八人で、イギリス人が大多数ではあったが、ギリシアからは三〇人余りが参加していた。アジアからの参加は筆者一人だけであった。また、医療現場からの参加者よりも、地域で TC を実践している組織からの参加者が多く、その対象も、子どもから大人まで、精神障害者、知的障害者、司法の問題を抱える人たちなど多岐にわたっていた。

会場の周辺には木々と草原しかないような静かな環境の中でカンファレンスは展開し、参加者は基本的には泊まり込みだった。三日間、毎日朝夕には参加者全員が参加する CM がもたれ、参加者はその時々で感じていることをことばにするように求められた。それに加えて、毎日午後には七、八人が参加する小グループが開かれ、そこではより深い自分の感情に向き合う時間を体験することになった。ミーティングやグループの間には講演やアートを用いたワークショップなどがもたれた。

このカンファレンスの間に、TCTC の「中核となる価



図1 会場 Cumberland Lodge

値基準「core value」一一項目が改訂され参加者に提案され承認された。以下にその価値基準を紹介する。

(一) 愛着 Attachment

健康な愛着は発達に必要なことであり、人間の基本的な権利である。

(二) コンテインすること Containment^②

全ての人には安全でかつ支持される環境が必要である。ここでは、発達、成長、もしくは変化のための、心理的なコンテインメントが可能である。

(三) 尊重 Respect

人は尊重されていると感じることが必要であり、他者の視点で定義されたり、描写されたりするべきではない。

(四) コミュニケーション Communication

全ての行動は意味を持つており、理解されることが必要なコミュニケーションである。

(五) 相互依存 Interdependence

個人のよりよく生きている感覚は、お互いのニーズを認識する関係性から生まれる。

(六) 関係性 Relationships

関係性を理解できていると、親しい人との、家族との、社交上の、そして仕事での生活の質がより良いものになる。

(七) 社会参加 Participation

自分の環境や関係性に影響を与え、そのことに關して決定を下す能力は、個人がより良く生きている感覚にとって必要不可欠である。

(八) プロセス Process

個人、集団、そして組織においては、直ちに行動

に移すよりも、じっくり振り返り、話し合う方が
良い結果を残すことが多い。

(九) バランス Balance

肯定的な体験、否定的な体験、そのどちらも、人
やコミュニティに健康な発達をもたらすものであ
る。

(十) 責任 Responsibility

個々人は他者に対して責任を持ち、他者はその個
人に対して責任を持つ。

(十一) コミュニティ Community

コミュニティの中で一人一人が自分自身の役割を
持つことによって、その人は他者の治療やケアに
役に立つことができるのである。

この一一項目はいずれも、「援助する側の人」「援助さ
れる側の人」の区別や「病気を持つ人」「健康な人」の
線引きもない。「人」の成長や回復に必要な価値基準で
ある。コミュニティの中で共にメンバーであるクライエ
ントとスタッフは、成長・回復という視点では同じ土俵
に立っている。つまり、このような価値基準が根付いて

いる、あるいは根付くための努力が継続されている環境
では、病を持つ人も持たない人も成長・回復が可能とな
り得るということである。

四. イギリスの治療共同体・二つの実践

― 病院と地域 ―

〈一〉精神科病院―カッセル病院 Cassel Hospital―

TCTCのカンファレンスの二日目、一〇月二二日の午
前中に、プログラムを中抜けしてロンドン郊外リッチ
モンドにあるカッセル病院を訪問した。ここは、国民
保健サービスNHSで運営され、R.D. Hinshelwoodが
一九九三年から一九九七年までクリニカルディレクター
を務めたTCTCの実践で有名な病院である。主な治療対象
はパーソナリティ障害の一六歳以上の患者であり、病床
は十八床である。入院期間は六カ月から一年。その後、
必要であればアウトリーチサービスに繋がられる。ス
タッフは、精神科医、看護師、ソーシャルワーカー、サ
イコセラピスト、グループサイコセラピスト、ダンス
ムーブメントセラピスト等の多職種で、チームアプロ
ーチが志向され、生活の中で学べる環境 living-learning

environment が治療の基盤におかれている。また、心理社会的看護 psycho-social nursing がこの病院の特色で、看護師が入院生活の活動を患者と共にしながらしっかりと一人一人に関わる。

この病院の「入院案内」は、患者と看護師が共同で作成したもので、入院予定の人に前もって渡されるのであるが、「Congratulations!」で始まり、「入院中にどのような治療が行われるのか」「治療に際して患者本人に期待されること expectations は何か」が具体的に示されている。例えば、「他の患者や看護師と関わること」「他の患者の助けを受けること」「活動の中で役割を引き受けること」「困難な感情に向き合うこと」等々。このことからわかるように、入院治療の中で人とのかわりを通して対人関係を成長させることが最重要事項であり、いかに「責任 responsibility」を引き受けるかがその鍵となっている。

筆者の知る日本の精神科病院では、「してはならないルール」についてはしっかり伝えられても、治療において患者自身に期待されることが明記された「入院案内」に出会うことは少ない。また、他の患者と関わりをもつ

ことも「トラブルの原因になる」という理由で「必要最小限にするように」と伝えられることが多い。一人の患者が他の患者を助けることは「干渉」と見なされることさえある。

見学は半日であったが、患者との昼食・朝食、CM、作業グループ（筆者は庭仕事に参加した）、患者代表者二人との対話、スタッフミーティング等、凝集した内容であった。CMでは、一人の患者に起こった問題を「コミュニティ全体の問題」として考え、コミュニティの問題を一人一人の問題と繋げて考える様子を目の当たりにすることができて驚嘆した。患者代表者との対話で、筆者の質問「これまでの精神科治療と何が異なるか？」に「Everything」の応え。「自分はこれまでの病院では随分依存的だった」とも付け加えられた。

〈二〉地域の居住型施設

ハイアムズ・ロッジ Highams Lodge
チャリティや政府からの給付金等で運営されている組織であるCHTが運営するプロジェクトの内の一つであるハイアムズ・ロッジを一〇月二四日に訪問した。ロン

ドンの北東部の静かな住宅街の一角に設けられた二階建ての建物で一五人定員。重篤な精神障害を持つ人のための居住型施設であり、利用者の約七〇%が統合失調症。主病名に加えてアルコール依存や薬物依存など他の疾患を併せ持つ人が一七%、過去に司法上の問題を起こしたことがある人が三五%である。精神科病院で急性期治療を終えるとすぐに入所する人が多いとのことであった。

スタッフは全てサイコセラピストとしての訓練を受けており、二四時間のケア体制で「C」の理念に基づいて運営されていた。日々のスケジュールには、CMやセラピー・グループがふんだんに組み込まれ、その前後にはスタッフのプレミーティングとレヴュー・ミーティングがしっかりと開かれており、グループ志向の心理学的サポート group oriented psychological support であることが良く分かる。

前述したように居住者は重篤な問題を抱えた人が多いのであるが、ここから大学や仕事に通う人も入居しており、スタッフは利用者がよりケアの少ない環境に異動できることを念頭において支援しているとのことであった。

Community Housing & Therapy implementing an innovative recovery model for the severely mentally ill

The Therapeutic Programme

	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY	SUNDAY
09-09.30	HANDOVER	HANDOVER	HANDOVER	HANDOVER	HANDOVER	HANDOVER	HANDOVER
30-09.45	Medication	Medication	Medication	Medication	Medication	Medication	Medication
45-10.00	STAFF PRE GROUP	STAFF PRE GROUP	STAFF PRE GROUP	STAFF PRE GROUP	STAFF PRE GROUP	STAFF PRE GROUP	STAFF PRE GROUP
00-11.00	Cleaning Group	Cleaning Group	10.00-10.30 Cleaning Group	Cleaning Group	Cleaning Group	11.00-11.30 Cleaning Group	
00-11.15	STAFF POST GROUP	STAFF POST GROUP	10.30-11.00 POST GROUP	STAFF POST GROUP	STAFF POST GROUP	STAFF POST GROUP	
00-12.00			Meeting				
00-12.15		Room check and Fire Test	STAFF POST GROUP				
15-1.15	LUNCH	LUNCH		LUNCH	LUNCH	LUNCH	LUNCH
15-1.30	STAFF PRE GROUP			STAFF PRE GROUP	STAFF PRE GROUP	STAFF PRE GROUP	STAFF PRE GROUP
30-2.30	Community Meeting		STAFF BUSINESS MEETINGS	Art and Music / Opportunity group	Community Meeting	Gardening and Maintenance Group	Sport Group
30-3.00	STAFF POST GROUP and PRE GROUP	STAFF PRE GROUP		STAFF POST GROUP/PRE GROUP	STAFF PRE GROUP	STAFF POST GROUP	STAFF POST GROUP
30-4.00	Therapy group	Catering Group		Therapy Group	Leisure Group		
40-4.15	STAFF POST GROUP			STAFF POST GROUP			
40-5.00	DINNER	DINNER	DINNER	DINNER	DINNER		DINNER
6.00	Medication	Medication	Medication	Medication	Medication	TAKE AWAY Medication	DINNER Medication
00-9.00							Film and Games Group
30-9.00	Medication	Medication	Medication	Medication	Medication	Medication	Medication



図2 CHT の治療プログラムのモデル (CHT パンフレットより)

このロッジの見学で印象に残っている一つのエピソードを紹介したい。

筆者の訪問日はロッジの食糧買い出しの日であった。スタッフの運転する車に、入居中の一人の女性Aさん（二〇代と思われる）と見学者である筆者と同行者が乗り込み、近くの大型スーパーマーケットに向かった。出かける時ははしゃいでいたAさんであったが、ロッジから離れるにつれ、徐々に表情が陰しくなり、その内に車の外の通行人に向かって、被害妄想に基づく攻撃的な言葉を発するようになった。スーパーマーケットに到着した後も、スタッフが押す大型のカートに食品を入れながら、時折「私をジロジロ見るな！」など大きな声で叫んでいた。スタッフはAさんを制することもなく必要な買い物物を淡々と続けていた（見事だった！）。レジに並び会計の順番が来て、スタッフ、Aさん、筆者らは、大量の食品をレジ台に移す作業にとりかかった。その時もAさんは小声ながらもブツブツと独語を言い続けていたが、手に取った一つ一つの食品を直接レジ台ではなく、わざわざ筆者に手渡した。Aさんは直接レジ台に手を伸ばせる十分な位置に居たのである。筆者はAさんから

手渡された食品をバケツリレーのようにレジ台に置きながら、Aさんの抱える不安が食品を通して自分の中に収納されていく（コンティンメント）感覚を覚えた。生活の中で、活動を共にしながら精神療法が機能するとはこういうことかもしれないと気づきをもたらした瞬間であった。

五. ワークショップ「アクションから学び Learning from Action」・イタリア

二〇一四年四月、イタリアのL. Mingarelli からメールが届いた。彼はパーソナリティ障害をもつ青年のTCで仕事をしているサイコロジストである。筆者のことはイギリスのJ. Gale から紹介されたとのことであった。メールの内容は、その年の一〇月二四日から二六日まで、ミラノ北部マッジョーレ湖畔にあるマッカーニョという村で開かれる体験型ワークショップへの誘いであった。それは、IL NODO GROUP というNPOが主催し、イギリスのTCTCやINDTC等が共催する形で運営されている。IL NODO GROUPは、個人や集団の間の意識的・

無意識的な関係のプロセスに焦点を当てて組織の問題に

ついての研究や介入を目的とする機関であり、イタリア・トリノに事務局を置いている。L. Mingarelliはその理事でもある。

ワークショップのテーマは「意思決定とそれのことばにする責任 Decision Making and Accountability」で、宿泊して生活を共にする中で生じる無意識の非言語的コミュニケーションが、いかに意思決定を方向づけ、その説明に影響を与えるかを探る機会を提供することであり、その方法論が Learning from Action であった。関係者の間ではこのワークショップは「LFA」と呼ばれていた。以下、筆者もこの名称を用いることにする。

LFA は、R.D. Hinshelwood とイタリアの E. Pedriali（医師・クリニカルサイコロジスト・グループアナリスト）の協働で二〇〇〇年初頭にデザインされ、一九五七年からイギリスのタビストック人間関係研究所によって開催を始められた Group Relation Conference（以下、GRC）にその起源を持つ。GRC については多くの文献が存在するのでここでは詳細は省略するが、K. Lewin の T group、W.R. Bion のグループに関する研究、M.

Klein の対象関係論などが理論的背景である。

GRC も LFA ワークショップも宿泊型である点は共通する。ここではアクシオンは無意識の非言語的コミュニケーションを運ぶ「乗り物」と考えられる。参加者は、数日間、ワークショップで一時的に作られたコミュニティに身を置く中で、直感的 intuitive、情動的 emotional レベルでさまざまな体験をし、そして、その体験をコミュニティの中で言語的に熟考する時間をもつ。それを可能な限り自分が実生活の中で身を置くコミュニティの中の役割や責任への理解とつなげる。それは困難な感情に向き合うことになるが有益な体験である。

このように、GRC と LFA の共通点は多いのであるが、LFA は、重篤な精神障害を抱えたクライエント、つまり言語的、象徴的なコミュニケーションが成立しにくく、具象的なコミュニケーションがその中心となる人たちの治療やケアの場で働く人たちを主な参加対象者としている。従って、コミュニティの中で繰り返されるアクシオンをより重視する。GRC との特徴的な相違点は、参加者とスタッフのワークショップ内での「生活」を維持す

るために必要な、食事、掃除を自分たちで賄うことである。CRCでは、それらは第三者（サービスセンター）によって提供される。

筆者は、言葉の障壁を懸念しつつも、R. D. Hinshelwoodの本から学んだこと、そして、前年、イギリスの二つの施設への訪問で見聞きしたことを、自分がメンバーとして体験できる機会であるこのワークショップに強く惹かれて参加することを決めた。

図3はLFAのプログラムである。朝夕には全体で集まるCMが開かれ、それ以外の時間は、参加者は三つの小グループに分かれて、「調理」「掃除」「レジャー」の活動をローテーションで担当する。アクティビティ↓振り返りの話し合い↓アクティビティ↓話し合い・・・の繰り返しで構成されている。また、スタッフは全体グループや、小グループに参加して、メンバーの熟考を促進するような介入を行う。

L. Mingarelliはメインディレクターである。

参加者は三九名。イタリアからの参加者が三分の二、その他はイギリス、ハンガリー、セルビア、イスラエル、ポルトガルからの参加で、日本人は筆者を含めて二

人であった。公用語は英語で、イタリア語ー英語の通訳者が参加していたが、実際の言語的コミュニケーションをリードしていたのはイタリア語だった。

LFAでの筆者の体験は、参加前に想像していたよりも強い痛みを伴うものであったが、生の感情に向き合うことのできる得難い体験であった。異国の地に居て、言葉がスムーズに通じないこと、長く務めた職場を退職することを考え始めていたことが影響した面も大きいと思われるが、ワークショップの安定したバウンダリーの中で、寝食を共にするからこそ体験できる「治療的退行」であっ

PROGRAM	
FRIDAY 20th OCTOBER	
09.00-10.00	Registration & orientation for participants / Initial welcome and Registration
10.00-10.30	Breakfast / Breakfast / Opening Meeting
10.30-11.00	Plenary Session / Light Lunch
11.00-11.30	Plenary Session / Plenary Session
11.30-12.00	Group Discussion / Decision Making Event
12.00-12.30	Group Discussion / Decision Making Event
12.30-13.00	Activity 1 / Activity
13.00-13.30	Plenary Session / Plenary Session
13.30-14.00	Activity 2 / Activity
14.00-14.30	Plenary Session / Plenary Session
14.30-15.00	Activity 3 / Activity
15.00-15.30	Plenary Session / Plenary Session
15.30-16.00	Activity 4 / Activity
16.00-16.30	Plenary Session / Plenary Session
16.30-17.00	Activity 5 / Activity
17.00-17.30	Plenary Session / Plenary Session
17.30-18.00	Activity 6 / Activity
18.00-18.30	Plenary Session / Plenary Session
18.30-19.00	Activity 7 / Activity
19.00-19.30	Plenary Session / Plenary Session
19.30-20.00	Activity 8 / Activity
20.00-20.30	Plenary Session / Plenary Session
20.30-21.00	Activity 9 / Activity
21.00-21.30	Plenary Session / Plenary Session
21.30-22.00	Activity 10 / Activity
22.00-22.30	Plenary Session / Plenary Session
22.30-23.00	Activity 11 / Activity
23.00-23.30	Plenary Session / Plenary Session
23.30-24.00	Activity 12 / Activity
24.00-24.30	Plenary Session / Plenary Session
24.30-25.00	Activity 13 / Activity
25.00-25.30	Plenary Session / Plenary Session
25.30-26.00	Activity 14 / Activity
26.00-26.30	Plenary Session / Plenary Session
26.30-27.00	Activity 15 / Activity
27.00-27.30	Plenary Session / Plenary Session
27.30-28.00	Activity 16 / Activity
28.00-28.30	Plenary Session / Plenary Session
28.30-29.00	Activity 17 / Activity
29.00-29.30	Plenary Session / Plenary Session
29.30-30.00	Activity 18 / Activity
30.00-30.30	Plenary Session / Plenary Session
30.30-31.00	Activity 19 / Activity
31.00-31.30	Plenary Session / Plenary Session
31.30-32.00	Activity 20 / Activity
32.00-32.30	Plenary Session / Plenary Session
32.30-33.00	Activity 21 / Activity
33.00-33.30	Plenary Session / Plenary Session
33.30-34.00	Activity 22 / Activity
34.00-34.30	Plenary Session / Plenary Session
34.30-35.00	Activity 23 / Activity
35.00-35.30	Plenary Session / Plenary Session
35.30-36.00	Activity 24 / Activity
36.00-36.30	Plenary Session / Plenary Session
36.30-37.00	Activity 25 / Activity
37.00-37.30	Plenary Session / Plenary Session
37.30-38.00	Activity 26 / Activity
38.00-38.30	Plenary Session / Plenary Session
38.30-39.00	Activity 27 / Activity
39.00-39.30	Plenary Session / Plenary Session
39.30-40.00	Activity 28 / Activity
40.00-40.30	Plenary Session / Plenary Session
40.30-41.00	Activity 29 / Activity
41.00-41.30	Plenary Session / Plenary Session
41.30-42.00	Activity 30 / Activity
42.00-42.30	Plenary Session / Plenary Session
42.30-43.00	Activity 31 / Activity
43.00-43.30	Plenary Session / Plenary Session
43.30-44.00	Activity 32 / Activity
44.00-44.30	Plenary Session / Plenary Session
44.30-45.00	Activity 33 / Activity
45.00-45.30	Plenary Session / Plenary Session
45.30-46.00	Activity 34 / Activity
46.00-46.30	Plenary Session / Plenary Session
46.30-47.00	Activity 35 / Activity
47.00-47.30	Plenary Session / Plenary Session
47.30-48.00	Activity 36 / Activity
48.00-48.30	Plenary Session / Plenary Session
48.30-49.00	Activity 37 / Activity
49.00-49.30	Plenary Session / Plenary Session
49.30-50.00	Activity 38 / Activity
50.00-50.30	Plenary Session / Plenary Session
50.30-51.00	Activity 39 / Activity
51.00-51.30	Plenary Session / Plenary Session
51.30-52.00	Activity 40 / Activity
52.00-52.30	Plenary Session / Plenary Session
52.30-53.00	Activity 41 / Activity
53.00-53.30	Plenary Session / Plenary Session
53.30-54.00	Activity 42 / Activity
54.00-54.30	Plenary Session / Plenary Session
54.30-55.00	Activity 43 / Activity
55.00-55.30	Plenary Session / Plenary Session
55.30-56.00	Activity 44 / Activity
56.00-56.30	Plenary Session / Plenary Session
56.30-57.00	Activity 45 / Activity
57.00-57.30	Plenary Session / Plenary Session
57.30-58.00	Activity 46 / Activity
58.00-58.30	Plenary Session / Plenary Session
58.30-59.00	Activity 47 / Activity
59.00-59.30	Plenary Session / Plenary Session
59.30-60.00	Activity 48 / Activity
60.00-60.30	Plenary Session / Plenary Session
60.30-61.00	Activity 49 / Activity
61.00-61.30	Plenary Session / Plenary Session
61.30-62.00	Activity 50 / Activity
62.00-62.30	Plenary Session / Plenary Session
62.30-63.00	Activity 51 / Activity
63.00-63.30	Plenary Session / Plenary Session
63.30-64.00	Activity 52 / Activity
64.00-64.30	Plenary Session / Plenary Session
64.30-65.00	Activity 53 / Activity
65.00-65.30	Plenary Session / Plenary Session
65.30-66.00	Activity 54 / Activity
66.00-66.30	Plenary Session / Plenary Session
66.30-67.00	Activity 55 / Activity
67.00-67.30	Plenary Session / Plenary Session
67.30-68.00	Activity 56 / Activity
68.00-68.30	Plenary Session / Plenary Session
68.30-69.00	Activity 57 / Activity
69.00-69.30	Plenary Session / Plenary Session
69.30-70.00	Activity 58 / Activity
70.00-70.30	Plenary Session / Plenary Session
70.30-71.00	Activity 59 / Activity
71.00-71.30	Plenary Session / Plenary Session
71.30-72.00	Activity 60 / Activity
72.00-72.30	Plenary Session / Plenary Session
72.30-73.00	Activity 61 / Activity
73.00-73.30	Plenary Session / Plenary Session
73.30-74.00	Activity 62 / Activity
74.00-74.30	Plenary Session / Plenary Session
74.30-75.00	Activity 63 / Activity
75.00-75.30	Plenary Session / Plenary Session
75.30-76.00	Activity 64 / Activity
76.00-76.30	Plenary Session / Plenary Session
76.30-77.00	Activity 65 / Activity
77.00-77.30	Plenary Session / Plenary Session
77.30-78.00	Activity 66 / Activity
78.00-78.30	Plenary Session / Plenary Session
78.30-79.00	Activity 67 / Activity
79.00-79.30	Plenary Session / Plenary Session
79.30-80.00	Activity 68 / Activity
80.00-80.30	Plenary Session / Plenary Session
80.30-81.00	Activity 69 / Activity
81.00-81.30	Plenary Session / Plenary Session
81.30-82.00	Activity 70 / Activity
82.00-82.30	Plenary Session / Plenary Session
82.30-83.00	Activity 71 / Activity
83.00-83.30	Plenary Session / Plenary Session
83.30-84.00	Activity 72 / Activity
84.00-84.30	Plenary Session / Plenary Session
84.30-85.00	Activity 73 / Activity
85.00-85.30	Plenary Session / Plenary Session
85.30-86.00	Activity 74 / Activity
86.00-86.30	Plenary Session / Plenary Session
86.30-87.00	Activity 75 / Activity
87.00-87.30	Plenary Session / Plenary Session
87.30-88.00	Activity 76 / Activity
88.00-88.30	Plenary Session / Plenary Session
88.30-89.00	Activity 77 / Activity
89.00-89.30	Plenary Session / Plenary Session
89.30-90.00	Activity 78 / Activity
90.00-90.30	Plenary Session / Plenary Session
90.30-91.00	Activity 79 / Activity
91.00-91.30	Plenary Session / Plenary Session
91.30-92.00	Activity 80 / Activity
92.00-92.30	Plenary Session / Plenary Session
92.30-93.00	Activity 81 / Activity
93.00-93.30	Plenary Session / Plenary Session
93.30-94.00	Activity 82 / Activity
94.00-94.30	Plenary Session / Plenary Session
94.30-95.00	Activity 83 / Activity
95.00-95.30	Plenary Session / Plenary Session
95.30-96.00	Activity 84 / Activity
96.00-96.30	Plenary Session / Plenary Session
96.30-97.00	Activity 85 / Activity
97.00-97.30	Plenary Session / Plenary Session
97.30-98.00	Activity 86 / Activity
98.00-98.30	Plenary Session / Plenary Session
98.30-99.00	Activity 87 / Activity
99.00-99.30	Plenary Session / Plenary Session
99.30-100.00	Activity 88 / Activity
100.00-100.30	Plenary Session / Plenary Session
100.30-101.00	Activity 89 / Activity
101.00-101.30	Plenary Session / Plenary Session
101.30-102.00	Activity 90 / Activity
102.00-102.30	Plenary Session / Plenary Session
102.30-103.00	Activity 91 / Activity
103.00-103.30	Plenary Session / Plenary Session
103.30-104.00	Activity 92 / Activity
104.00-104.30	Plenary Session / Plenary Session
104.30-105.00	Activity 93 / Activity
105.00-105.30	Plenary Session / Plenary Session
105.30-106.00	Activity 94 / Activity
106.00-106.30	Plenary Session / Plenary Session
106.30-107.00	Activity 95 / Activity
107.00-107.30	Plenary Session / Plenary Session
107.30-108.00	Activity 96 / Activity
108.00-108.30	Plenary Session / Plenary Session
108.30-109.00	Activity 97 / Activity
109.00-109.30	Plenary Session / Plenary Session
109.30-110.00	Activity 98 / Activity
110.00-110.30	Plenary Session / Plenary Session
110.30-111.00	Activity 99 / Activity
111.00-111.30	Plenary Session / Plenary Session
111.30-112.00	Activity 100 / Activity
112.00-112.30	Plenary Session / Plenary Session
112.30-113.00	Activity 101 / Activity
113.00-113.30	Plenary Session / Plenary Session
113.30-114.00	Activity 102 / Activity
114.00-114.30	Plenary Session / Plenary Session
114.30-115.00	Activity 103 / Activity
115.00-115.30	Plenary Session / Plenary Session
115.30-116.00	Activity 104 / Activity
116.00-116.30	Plenary Session / Plenary Session
116.30-117.00	Activity 105 / Activity
117.00-117.30	Plenary Session / Plenary Session
117.30-118.00	Activity 106 / Activity
118.00-118.30	Plenary Session / Plenary Session
118.30-119.00	Activity 107 / Activity
119.00-119.30	Plenary Session / Plenary Session
119.30-120.00	Activity 108 / Activity
120.00-120.30	Plenary Session / Plenary Session
120.30-121.00	Activity 109 / Activity
121.00-121.30	Plenary Session / Plenary Session
121.30-122.00	Activity 110 / Activity
122.00-122.30	Plenary Session / Plenary Session
122.30-123.00	Activity 111 / Activity
123.00-123.30	Plenary Session / Plenary Session
123.30-124.00	Activity 112 / Activity
124.00-124.30	Plenary Session / Plenary Session
124.30-125.00	Activity 113 / Activity
125.00-125.30	Plenary Session / Plenary Session
125.30-126.00	Activity 114 / Activity
126.00-126.30	Plenary Session / Plenary Session
126.30-127.00	Activity 115 / Activity
127.00-127.30	Plenary Session / Plenary Session
127.30-128.00	Activity 116 / Activity
128.00-128.30	Plenary Session / Plenary Session
128.30-129.00	Activity 117 / Activity
129.00-129.30	Plenary Session / Plenary Session
129.30-130.00	Activity 118 / Activity
130.00-130.30	Plenary Session / Plenary Session
130.30-131.00	Activity 119 / Activity
131.00-131.30	Plenary Session / Plenary Session
131.30-132.00	Activity 120 / Activity
132.00-132.30	Plenary Session / Plenary Session
132.30-133.00	Activity 121 / Activity
133.00-133.30	Plenary Session / Plenary Session
133.30-134.00	Activity 122 / Activity
134.00-134.30	Plenary Session / Plenary Session
134.30-135.00	Activity 123 / Activity
135.00-135.30	Plenary Session / Plenary Session
135.30-136.00	Activity 124 / Activity
136.00-136.30	Plenary Session / Plenary Session
136.30-137.00	Activity 125 / Activity
137.00-137.30	Plenary Session / Plenary Session
137.30-138.00	Activity 126 / Activity
138.00-138.30	Plenary Session / Plenary Session
138.30-139.00	Activity 127 / Activity
139.00-139.30	Plenary Session / Plenary Session
139.30-140.00	Activity 128 / Activity
140.00-140.30	Plenary Session / Plenary Session
140.30-141.00	Activity 129 / Activity
141.00-141.30	Plenary Session / Plenary Session
141.30-142.00	Activity 130 / Activity
142.00-142.30	Plenary Session / Plenary Session
142.30-143.00	Activity 131 / Activity
143.00-143.30	Plenary Session / Plenary Session
143.30-144.00	Activity 132 / Activity
144.00-144.30	Plenary Session / Plenary Session
144.30-145.00	Activity 133 / Activity
145.00-145.30	Plenary Session / Plenary Session
145.30-146.00	Activity 134 / Activity
146.00-146.30	Plenary Session / Plenary Session
146.30-147.00	Activity 135 / Activity
147.00-147.30	Plenary Session / Plenary Session
147.30-148.00	Activity 136 / Activity
148.00-148.30	Plenary Session / Plenary Session
148.30-149.00	Activity 137 / Activity
149.00-149.30	Plenary Session / Plenary Session
149.30-150.00	Activity 138 / Activity
150.00-150.30	Plenary Session / Plenary Session
150.30-151.00	Activity 139 / Activity
151.00-151.30	Plenary Session / Plenary Session
151.30-152.00	Activity 140 / Activity
152.00-152.30	Plenary Session / Plenary Session
152.30-153.00	Activity 141 / Activity
153.00-153.30	Plenary Session / Plenary Session
153.30-154.00	Activity 142 / Activity
154.00-154.30	Plenary Session / Plenary Session
154.30-155.00	Activity 143 / Activity
155.00-155.30	Plenary Session / Plenary Session
155.30-156.00	Activity 144 / Activity
156.00-156.30	Plenary Session / Plenary Session
156.30-157.00	Activity 145 / Activity
157.00-157.30	Plenary Session / Plenary Session
157.30-158.00	Activity 146 / Activity
158.00-158.30	Plenary Session / Plenary Session
158.30-159.00	Activity 147 / Activity
159.00-159.30	Plenary Session / Plenary Session
159.30-160.00	Activity 148 / Activity
160.00-160.30	Plenary Session / Plenary Session
160.30-161.00	Activity 149 / Activity
161.00-161.30	Plenary Session / Plenary Session
161.30-162.00	Activity 150 / Activity
162.00-162.30	Plenary Session / Plenary Session
162.30-163.00	Activity 151 / Activity
163.00-163.30	Plenary Session / Plenary Session
163.30-164.00	Activity 152 / Activity
164.00-164.30	Plenary Session / Plenary Session
164.30-165.00	Activity 153 / Activity
165.00-165.30	Plenary Session / Plenary Session
165.30-166.00	Activity 154 / Activity
166.00-166.30	Plenary Session / Plenary Session
166.30-167.00	Activity 155 / Activity
167.00-167.30	Plenary Session / Plenary Session
167.30-168.00	Activity 156 / Activity
168.00-168.30	Plenary Session / Plenary Session
168.30-169.00	Activity 157 / Activity
169.00-169.30	Plenary Session / Plenary Session
169.30-170.00	Activity 158 / Activity
170.00-170.30	Plenary Session / Plenary Session
170.30-171.00	Activity 159 / Activity
171.00-171.30	Plenary Session / Plenary Session
171.30-172.00	Activity 160 / Activity
172.00-172.30	Plenary Session / Plenary Session
172.30-173.00	Activity 161 / Activity
173.00-173.30	Plenary Session / Plenary Session
173.30-174.00	Activity 162 / Activity
174.00-174.30	Plenary Session / Plenary Session
174.30-175.00	Activity 163 / Activity
175.00-175.30	Plenary Session / Plenary Session
175.30-176.00	Activity 164 / Activity
176.00-176.30	Plenary Session / Plenary Session
176.30-177.00	Activity 165 / Activity
177.00-177.30	Plenary Session / Plenary Session
177.30-178.00	Activity 166 / Activity
178.00-178.30	Plenary Session / Plenary Session
178.30-179.00	Activity 167 / Activity
179.00-179.30	Plenary Session / Plenary Session
179.30-180.00	Activity 168 / Activity
180.00-180.30	Plenary Session / Plenary Session
180.30-181.00	Activity 169 / Activity
181.00-181.30	Plenary Session / Plenary Session
181.30-182.00	Activity 170 / Activity
182.00-182.30	Plenary Session / Plenary Session
182.30-183.00	Activity 171 / Activity
183.00-183.30	Plenary Session / Plenary Session
183.30-184.00	Activity 172 / Activity
184.00-184.30	Plenary Session / Plenary Session
184.30-185.00	Activity 173 / Activity
185.00-185.30	Plenary Session / Plenary Session
185.30-186.00	Activity 174 / Activity
186.00-186.30	Plenary Session / Plenary Session
186.30-187.00	Activity 175 / Activity
187.00-187.30	Plenary Session / Plenary Session
187.30-188.00	Activity 176 / Activity
188.00-188.30	Plenary Session / Plenary Session
188.30-189.00	Activity 177 / Activity
189.00-189.30	Plenary Session / Plenary Session
189.30-190.00	Activity 178 / Activity
190.00-190.30	Plenary Session / Plenary Session
190.30-191.00	Activity 179 / Activity
191.00-191.30	Plenary Session / Plenary Session
191.30-192.00	Activity 180 / Activity
192.00-192.30	Plenary Session / Plenary Session
192.30-193.00	Activity 181 / Activity
193.00-193.30	Plenary Session / Plenary Session
193.30-194.00	Activity 182 / Activity
194.00-194.30	Plenary Session / Plenary Session
194.30-195.00	Activity 183 / Activity
195.00-195.30	Plenary Session / Plenary Session
195.30-196.00	Activity 184 / Activity
196.00-196.30	Plenary Session / Plenary Session
196.30-197.00	Activity 185 / Activity
197.00-197.30	Plenary Session / Plenary Session
197.30-198.00	

たと考えている。

本稿では具体的なエピソードを紹介するのは控えるものの、筆者が引き起こした「アクション」を、ワークショップのコミュニケーションは、コミュニケーション全体の問題としてとらえコンティンシ、共にその意味を熟考した。その中で筆者は、自分自身のアクションを通して「エナクトメント」を体験的に学んだ。つまり、これまで自分が働く組織の中でずっと感じてはいたものの否認していた自分の情動に、自分のアクションを媒介として向き合うことができたのである。バウンダリーがしっかりと安定している環境で、熟考のための場が準備されているところでは、「acting OUT」は「acting IN」となり、そこではアクションは学習の豊かな素材となり得る。

今回の体験の中で、自分の中にある混乱した部分に嫌ほど直面させられた。

筆者に起こった出来事は、重篤な精神的問題を抱えるクライアントが治療環境の中で表現として用いているコミュニケーションである。もし、周囲がそのような視点で関われば、豊かな治療の素材である。今回の体験は、彼らとの作業における筆者の懐を広げてくれたに違いな

いと感じている。

最終日、最後のプログラムは「Goodbye」だった。何度も何度も別れを交わし合った。

そして、今、筆者は日本で現職場のクライアントや同僚に別れを伝え始めている^③。別れを伝えるたびにマッカードニョでの別れの時間を思い出す。多分、別れのため



図4 会場近く 夕暮れのマッジョーレ湖

には長い時間が必要なのであろう。

六. おわりに

日本の精神科医療は、その歴史の中で、かつて多くの長期入院患者を生み出してしまった。その反省から、厚生労働省は二一世紀に入り「入院治療中心から地域生活中心へ」との方針を打ち出した。その方針に沿って、歩みは遅いが少しずつ、精神的な病を持つ人が地域で安心して暮らしていけるための整備・工夫がなされてきている。地域でのサポート体制を整えることで、不必要な入院を減らす、あるいは、一旦入院したにしてもできるだけ速やかに地域の生活に戻れることが大切なのは当然である。

しかしながら、同時に、他の患者やスタッフと日常の時間を共にする入院という設定だからこそこできる心理社会的な治療とは何なのかを考え抽出していく作業を今一度見直すことが必要ではないか。

精神科医療には、精神病的な症状と共に、一人一人の患者の「人とかかわりの病」が持ち込まれているは

ずである。自分のこれまでの生活の中での「耐えがたさ」が持ち込まれているはずである。それに目を向けずに症状のみを標的にしても問題は繰り返される。

「〇」を生み出し育んだイギリスにおいても、近年は多くの「〇」組織が閉鎖に追い込まれていると聞く。ましてや日本において、「〇」のアプローチそのままを病棟に持ち込むのは難しいであろう。しかしながら、その中核となる価値基準を自分たちのものとして治療に臨み、アクションから学ぶ視点を保持することができるのであれば、その環境において、患者はもちろんスタッフの成長・回復が可能になるのではないかと筆者は考える。

注

① Reflective enquiry を「熟考に基づく探究」と訳したが、reflective とは、ある事象に関して、継続的に、かつ、その時々的事象を取り巻く状況を同時に繋げ反映させながらじっくり考えるという意味で使われていると筆者は解釈している。

② コンテイニング Containing は、精神分析事典による

と「相手からの投影物である感情や思考を受容的に受け入れる心的態度の特性を表している」と定義されており、「含み込み」「包み込むこと」「包容機能」と訳されることもあるが、最近では「そのままカタカナで用いられることが多い。従って、ここで用いられている Containment についても「コンテインメント」とした。

③本稿は二〇一五年一月に執筆したものである。

文 献

- Clark, D.H. (1968) Assignment report, November 1967 - February 1968. World health organization regional office for the western pacific.
- Haigh, R. (2013) The Quintessence of a Therapeutic Environment. *Therapeutic Communities*, 34(1), 6-15.
- Hinschelwood, R.D. (2001) *Thinking About Institutions - Milieux and Madness*. London and Philadelphia : Jessica Kingsley Publishers.
- Hinschelwood, R.D., Pedriali, E. and Brunner, L. D. (2010) Action as a Vehicle for Learning: The 'Learning from Doing Workshop'. *Organisational & Social Dynamics*, 10(1), 22-39.
- 古賀恵里子 (2013) トピックス 治療共同体 *Therapeutic Communities* ・再考. 日本精神科病院協会通信教育副読本「萌」, 報告号, 11-12.
- 古賀恵里子 (2014): トピックス 成長回復を可能にするコミュニティとは? —治療共同体コンソーシアムのウインザーカンファレンスに参加して. 日本精神科病院協会通信教育副読本「蘭」, 中巻, 19-23.
- 古賀恵里子 (2014) 学会印象記 *The Consortium for Therapeutic Communities (TCTC) Annual International Conference* に参加して. 集団精神療法, 30(1), 107-108.
- 松木邦裕 (2002): コンテインング・精神分析事典. 東京: 岩崎学術出版, 144-145.
- 三品桂子 (2013) 重い精神障害のある人への包括型地域支援—アウトリーチ活動の理念とスキル. 東京: 学術出版社.

鈴木純一(2014)：集団精神療法 理論と実際・東京：金剛出版・

(人間科学部准教授・二〇一五年四月着任)

芸術とテクノロジーの関係性について

北市 記子

一・現代芸術の動向

現代芸術の一領域として、近年メディアアートが大きな注目を集めている。美術界では以前からの大きな流れとして、従来の絵画や彫刻に代わって、インスタレーションと呼ばれる新しい表現様式の作品が増えているが、今ではその多くが、映像やコンピュータなどのデジタルメディアを巧みに取り入れた、複合的な要素を持つものとなっている。

インスタレーションという語は本来、「設置」や「装置」を意味するものであるが、美術分野で用いられる場合は、様々な仕掛けによって鑑賞者をも取り込んで、ある「状況」をつくり出し、展示空間全体を作品の構成要素とするような、拡張性を持った作品群のことを指す。

インスタレーション作品の最も大きな特徴として、それ自体に恒久性（モノとしての絶対的な存在感）がなく、展示空間のその時々状況によって作品のフォルムが変化することが挙げられるが、そこに仕掛けとして映像やコンピュータなどのデジタルメディアを用いることで、鑑賞者が受容するイメージはさらに変幻自在なものとなるのである。

二・ビデオアートからメディアアートへ

そもそもインスタレーション作品の起源は、空間的な拡がりを持ったビデオアート作品にあるとされている。

ビデオアートとは、一九六〇年代後半に韓国出身の現代芸術家ナムジュン・パイクによって生み出された、新しい芸術表現である。初期のビデオアート作品では、従来の映画鑑賞のスタイルを踏襲したテープ作品（作り込まれた録画済のコンテンツを受動的に鑑賞するもの）だけでなく、ビデオメディアの特性である時間的同時に着目した、パフォーマンズの要素を持つものも数多く制作された。そこで鑑賞者は、記録されたイメージではなく、今まさにその場で生成されつつあるイメージと対峙することとなるのだが、これらの作品がさらに発展的に深化を遂げていく中で、そうした時間的な要素と共にインタラクティブな要素（メディアと鑑賞者との対話的なコミュニケーション）をより現前化させる方向性が生み出された。ここでは、鑑賞者の何気ない動作やスイッチ操作などの能動的なアプローチによって作品の最終的なフォルムが形づくられるという、新たな状況がつくり出されていったのである。

このようにしてビデオアートから誕生した初期のインスタレーション作品は、特にビデオ・インスタレーションと呼ばれており、一九七〇年代以降、現代芸術の一つ

のムーブメントとなっていた。しかしその後、コンピュータを始めとするデジタルテクノロジーの発達によって映像装置以外の様々なメディアを用いた複合的な作品が増えるようになると、ビデオアートやビデオ・インスタレーションという呼称が、次第に実体にそぐわないものとなっていた。そうして、ビデオメディアを含むより広範囲なメディアを用いた作品群を包括するものとして、概ね一九九〇年前後を境に、メディアアートという呼称が広く用いられるようになっていったのである。

「科学技術立国」を標榜する日本にとっても、最先端のテクノロジーを用いたメディアアートは非常に親和性が高く、当該分野における日本人アーティストの活躍は、古くから非常に顕著なものとなっている。そして一九六〇年代に始まったビデオアートもまた、その誕生の大きなきっかけとして、当時ソニーが世界に先がけて発売したポータブル・ビデオシステム「ポータパック」①の存在が関係していたことはよく知られている。テクノロジーの発達によって期せずして新たなツールを手にしたアーティスト達は、そこにメディアとしての革新的な

機能が存在することにいち早く気づき、クリエイティブな思考でそれを自由自在に操ることによって、既存の芸術表現にはない、新しい表現領域を自ら切り拓いていったのである。

三、メディアアートの危うさ

このようにメディアアートは常に、芸術とテクノロジーが表裏一体の関係となつて発展してきたものである。しかし近年、これまでも増してメディアアートの表現が注目を集める中で、芸術的な要素（表現）よりもメディアテクノロジー（技術的な新しさ）がよりクローズアップされる傾向が見受けられる。メディア・インスタレーション作品の中でも、特に双方向の情報のやり取りによつて成立するものをインタラクティブアートと呼んでいるが、そうした作品群の中には直感的な操作による反応を楽しむ、ゲーム的な要素を持つものも少なくない。これらの作品は、元来アートに対する興味や知識のない人にも受け入れやすいという側面があり、特に子供達にとっては格好のアトラクションとなるのである。私

はここ数年来、毎年九月にオーストリアのリンツで開催される世界最大規模のメディアアート展「アルス・エレクトロニカ」^②を訪れ、最新のメディアアートの動向調査を行っているが、その会場でも、地元の親子連れがワイワイと楽しみながら作品見学を行っている場面に幾度となく出会う。そうした光景は非常に微笑ましく、また最先端のアートが日常生活の中にすつかりとけ込んでいるという状況を羨ましくも感じるのだが、ことさらテクノロジーを前傾化することは、芸術作品に本来不可欠な表現の部分がおさなりになつてしまう危険性も孕んでいる。

現在日本国内では、全国数十カ所を巡回し、「観客総動員数一〇〇万人以上」という触れ込みで盛況を博している「魔法の美術館」^③というメディアアート展が開催されている。同展のウェブサイトにもしも記されているように、そこではより「わかりやすく」「楽しめる」作品が求められるのである。出展アーティストの名前を見てみると、メディアアートの最前線で精力的に活動を行っている若手アーティストが多く参加しており、相応の質の高い作品が展示されていることが分かる。しかし訪れ

る観客のうち、果たしてどれほどの人々が、これらの作品の本質的な「おもしろさ」を実感できているだろうか。同様の疑問は主催者側にも感じており、いわば「金になる企画」としてメディアアートの着目し、これを盛り立てようとしているだけではないか、との危惧を感じざるを得ないのである。そこでは、芸術作品が「目新しさ」を売りとする消費の対象となっており、時代の遷り変わりに伴うさらなるテクノロジーの発達によって次第にその存在価値を失っていくという、儚い運命にさらされているのである。

また昨今の「プロジェクト・マッピング」ブームにおいても同様に、単なる手法のみを模倣するかたちで、二番煎じの作品が氾濫しているという現状が見られる。先に述べたように、映し出された映像と周囲の空間とを複合的に融合させる試みは、現代芸術の領域において、ビデオ・インスタレーション作品で古くから実践されてきた表現手法である。しかし残念ながら、こうしたアートシーンにおける先駆的な試みは一般にはあまり認知されていない。それ故に「プロジェクト・マッピング」の作品が、技術的な目新しさを是とする風潮に煽

られるかたちで必要以上に必要ではやされ、商業的な目論みによってひたすら量産される、といった状況が生まれているのである。

四、今後の展望とまとめ

私は自身の研究課題として、これまで一貫して「芸術とテクノロジー」の関係性について考えてきたが、メディアアートが言わば「未来の芸術」としてこれまで以上に大きな注目を集める中で、この普遍的な命題について改めて深く考察していきたいと考えている。最初のメディアアートと言われる写真が発明されてから今日まで一七〇年余り、映画・テレビ・ビデオ・コンピュータなど次々と新しいメディアが誕生し、またそれに呼応するかのように様々な新しい表現が生み出されてきたが、それらが既存の「芸術」という範疇において展開される時、どのような方向性を掲げて発展を遂げてきたのかを検証する。

その具体的なアプローチとして現在進めているのが、メディアアーティスト山口勝弘およびその作品群につい

ての調査である。山口は一九五〇年代に前衛芸術家集団「実験工房」のメンバーとして活躍し、以後今日まで六〇年以上にわたって日本のメディアアートの牽引者として先駆的な活動を行ってきた人物である。彼の初期の代表作「ヴィトリヌ」^④は、今日で言うところのインタラクティブアートの的な表現を絵画という既存のフォーマット上で実践したものであり、その斬新な表現技法は今なお見る者のイマジネーションをかき立てる。この作品が発表から半世紀以上経った今でも決して色褪せないのは、山口が追い求める「新しさ」が、決して安易なテクノロジー志向に基づくものではなく、既存の考え方や感覚そのものを揺さぶろうとする挑戦的な思考に裏打ちされたものだからである。

山口はビデオアートの創始者ナム・ジュン・パイクとも親交があり、自身もまた日本のビデオアートの先駆者として、いち早くこの新しいメディアを表現に取り入れた。そもそもビデオメディアは、同じ電子映像を取り扱うテレビメディアと比較して、格段に自由度の高いメディアである。テレビという装置はそれまで、放送局から一方的に発信される情報を単に「受信する」ためのものであつ

たが、アーティスト達はそれをマスメディアの手から解放し放ち、全く新しい「光の造形物」に変えてしまった。こうした、既存の制度化された物のとらえ方に対するクリティカルな視点がビデオアートの出発点であり、また大きな特徴でもあるのだ。

ビデオアートから発展したメディアアートも、元来そうした挑戦的・前衛的な思考を継承しながら発展してきたはずである。しかし先述したように現代のメディアアートには、表現の源泉としてのコンセプトチュアルな思考が欠落した、アトラクショナルな作品が数多く見受けられる。自身の今後の研究課題は、こうした現状へのアンチテーゼとして「芸術とテクノロジー」の問題を再考することである。それは決してビデオアートを懐かしむノスタルジックなものではなく、今まさに生まれつつある、「未来の芸術」としてのメディアアートが目指すべき新たな表現の可能性を展望するものである。

【附記】

本研究はJGS科研費（課題番号：二六三七〇一九〇）の助成を受けて進めている。

【注】

①一九六〇年代後半、ソニーが発売した家庭用のポータブル・ビデオシステム。小型のビデオカメラとビデオレコーダーの二台がセットになっており、機動性に優れていた。

②一九七九年に始まった、世界最大規模のメディアアートの祭典。当初はビエンナーレ形式（隔年）での開催であったが、八六年以降は毎年開催され現在に至っている。

③ステップ・イースト社の企画によるメディアアート展。二〇〇九年以降、美術館など全国数十カ所以上の施設を巡回し、盛況を博している。大阪ではあべのハルカス美術館で、二〇一五年十二月から開催が予定されている。

④山口勝弘の初期の代表作として知られる、半立体的な絵画作品のシリーズ。描かれたパターンの上に特殊な加工を施されたガラス（モールガラス）が複数重ねられており、鑑賞者の動きによってイメージそのものが変化する仕掛けになっている。

（人間科学部准教授・二〇一五年四月着任）